



先月号の広報配布の途中、上田代の吉田政市さんに声をかけていただき、吉田さん宅で満開の藤の花を撮影させていただきました。これほど見事に咲いたのは数年ぶりとのこと。

山崎慎仁(鹿橋)	吉田兼松(鹿橋)	坂本光江(老部)	東田しわ(白糠)	坂本せ(老部)	上路一(大)	★お悔やみ申し上げます	山本蒼音(亮太鹿橋)	星銀雅(慧太岩)	島田統(光)尻屋	畑中美音(勇樹)尻
34歳	78歳	92歳	92歳	90歳	71歳		橋	屋	屋	尻

★お誕生おめでとう

戸籍のおめでとう (5月届出分)



山崎直人さん(早掛平)の三女 **小梅** ちゃん



嶋田慶一さん(上田屋)の長女 **幸夏** ちゃん



上路一仁さん(大利)の長女 **実依** ちゃん

満一歳です！

ひがしどおりのさんぽみち

タイトル: 圓流寺の笏谷石の六地藏
情報提供者: 三浦順一郎さん

今回は、全国北前船研究会会員の三浦順一郎さんがお寄せくださった圓流寺(砂子又)の六地藏についてです。

三浦さんによると、圓流寺の六地藏は笏谷石という福井市の足羽山で採掘される薄青色の石(火山礫凝灰岩)できているとのこと。笏谷石は加工がしやすく、古墳の石棺や墓石、石仏、石燈籠、狛犬、鳥居、土台石、敷石等に使われているようで、江戸時代には北前船で北は松前・江差(北海道)、南は松江(島根県)まで運ばれました。

笏谷石の六地藏は下北の他の寺社にもあり、円通寺が県内最古(1654年)で、次が関根の大日寺(1659年)なのだそうです。圓流寺の六地藏は笏谷石の特徴である薄青色が鮮やかで見所のある六地藏なのだから。

圓流寺の六地藏は寰海賢中の時(1829年)に、坂本藤右衛門が発願主となり小田野沢・白糠・猿ヶ森・下田代・尻尻・老部・上田代・砂子又の講中が寄進しました。

右から宝性地蔵・法印地藏・法性地蔵・陀羅尼地藏・鶏龜地藏・地持地藏で、下北で唯一の完全無欠の六地藏なのだそうです。近くにお越しの際は参拝してみたいかがでしょうか？

